

税の作文紹介

昨年11月22日（水）に「中学生の税の作文並びに税の標語」の表彰式で表彰された税の作文を随時、紹介します。（受賞者は広報ひろがわ1月号で紹介しています。）



■未来の私たちのために

耐久中学校 尾田 桃佳

暮らしている家にもかかっている。物を買った時にもかかっている。学校の物にも使われている。意識してみると身近にある税金。私がうけとっている税金は、いろんな大人たちがくたくたしているもので、でもあたり前のようになっている。感謝することを忘れてしまう。

このあいだ、私たちの学校の一部がへこんでいて、その工事をして下さっている人がいた。その時は「あれ？あそこなんで工事？」と思う程度だった。でも、今改めて税について考えると、こ

れも税金でできているんだなと思う。いつも当然のように使っている教科書も、毎日絶対通っている道路も、学校にある備品も全部。そう考えると、どのくらいの額なんだろう、と疑問に思う。

少子高齢化が進み、働き手が減ると共に、高齢者が増えている。老人ホームなどの施設にも税金がいり、だんだん若い世代の負担が大きくなっていく。少子化問題が起きていることに対し、焦りを感じることは少ない。しかし、税金について考えると、どうやってもひっかかってくる問題である。納める人が減れば当然使える税金も減り、結果快適にくらしづらい社会ができあがってしまうのではないかと、私は思う。学校に行くのにお金がかかり、病院でもお金がかかり……全てにおいて多くのお金がかかる社会。日本の経済がこわれていく。

くても、無料で学校に行くことができるのは税金があるからだ。私たちが何気なく払っている、あのお金は、私たちの生活を支えてくれているのだ。

私の大好きな本が、図書館で読むことができるのも、税金のおかげだろう。税金がなければ、本を公立の図書館では読めなかったと思う。

私たちは、いつも税金に助けられている。それに答えることができるよう、私はたくさん本を立派な大人になりたい。そして税金を払い、次の世代にも同じようになりたい。次の世代の人が図書館で本を読み、学校で勉強できるよう、私はもっと本を読みたいと思った。



■幸せの貯金

耐久中学校 石原 采音

私の夢は教師になることです。今、中学校で勉強を教えてください先生方のようになりたいと思っ

年金は、私たちが十年後にはらう税金は私たちの親世代にいき、さらに私たちの一つ下の世代から私たちは年金を受けとることになる。すると、やはりひっかかってくるのは少子化問題である。私たちの老後に年金があるのか、存在があるのかも今のままでは確認がない。かなり不安定で、不安の残る未来である。

私が将来働きだした時には、当然のことだけれどきちんと税金を納めるようにしたい。税金をはらっていないで将来困るのは自分だから、いつか自分にかえってくる、と考えて将来納めるようにしたい。そうすることで、自分の未来を安定させ、納める一人一人がその意識をもつことで日本の将来を安定させることができる。「将来の日本のために」とか「日本を暮らしやすくするために」というと大きな話と思ってしまうがちだ

たからです。学校には、たくさんのお金があります。机やボール、チョークなど、たくさんのもので税金で支払われていますが、私は、先生方への給料も税金で支払われていることを、最近、初めて知りました。その時、私は、自分や自分の父、母、祖父、祖母など家族が消費税、所得税、法人税などの税金を払ってくれることで勉強ができていくんだとそのことを再確認しました。自分の将来のためにいつもなにげなく税金を払っていると思うと、なんだか少し良い気持ちになれるような気が私にはします。そう思うからこそ、「1ヶ月から消費税が上がります。」というふうにニュースで言っていたのを思い出しても、今思えば、悪いことではないのではないかなど私は考えることができました。だから、私は消費税が上がることと同じように私たちの幸せになれることが増えていくのではないかなど考えます。

その例でいうと、私には、祖父母がいます。どちらも今まで農家を営んでいましたが、祖父も祖母も年をかさねていくにつれて、どうしても手足が不自由になってしまい、畑を行っていた場所も昔の

が、実はほんとに身近な話で、「自分のため」でもある。私は、この作文をかくことによって、税金ということについてよく考えられ、大切なことに気付けた。



■税金で本を読む。

耐久中学校 西岡 董

私は本を読むのが好きだ。だからよく図書館を利用する。私がよく行っている図書館は町が運営している。蔵書されている本も多く、館内は快適なので、とても気に入っている。

図書館では年に何百冊も本が仕入れられていると聞いたことがある。そして、私が通う図書館にも、半分以上になってきてしまいました。その後、父などと相談し、家で食べる分しか畑を行わないことにしたそうです。そうすると、収入をえることができなくなってしまうので、「年金」が必要となってきました。年金は税金であるため、やはり私たちの支払ったお金となってきました。そう考えると、税金で家族が幸せになってくれるのはとてもうれしいことです。なので、自分のため、家族のため、町や国が成長していくために、税金は必要不可欠であることを頭に入れた、これからの生活をすごしていきたいと思えます。自分たちが幸せになるための貯金であることをずっと頭に入れてこれからの生活をおくっていきます。



▲受賞者のみなさん

毎月たくさんのお金が入って来る。こんな風に図書館に大量の本が入り、私たちが楽しめているのは、税金のおかげだ。本を買うときだけではない。図書館を建てたり、そこで働く人たちにも税金がかけてある。しかし、税金を払うのが嫌な人もいるだろう。私も、なにかを買うとき定価より高いお金を出すのは嫌だ。中学生の私が払う税金といえば消費税くらいしかないが、社会で働いてくれている大人たちは、私よりもっと多額の、様々な種類の税金を払ってくれている。そして、その税金は、私たちがよりよい生活をするために使われている。例えば、私たちが通う学校、けがや病気のとき、なければとても困る病院、道路を通るときに見る信号機、そして図書館……。税金は、私たちが生活するために必要なものを揃えるために使われている。

そして、それらを支えていた税金がなくなると、私たちはとても混乱することになるだろう。学校に通う時や道路を通る時には、その度にお金を払わなければならなくなるかもしれない。私たちが毎日そんなことをしな